

### 「沖縄・離島の子ども派遣基金」とは

この事業は、子どもたちの「体験」を保障するために、地域の企業や支援者、さらにはご家族も参画できる「基金」という仕組みです。「基金」には誰でも自由に寄付ができ、寄付の領収書を確定申告に使用すれば様々な税制優遇を受けることができます。子どもの派遣が決まった方々であれば、誰でも使うことができる仕組みを目指しており、寄付で集まった資金は旅費等に関連することであれば、すべてに使用できます。

この実証事業の原資「休眠預金」について



銀行で10年以上出入金を確認できない「休眠預金」を、それを民間の公益活動に活かす「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」が、平成30年に施行されました。一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）が指定活用団体として、資金分配団体を公募・選定し、資金分配団体が民間公益活動を行う実行団体に対して助成を行います。「公益財団法人みらいファンド沖縄」は、沖縄ブロックで資金分配団体に応募し採択されました。

### 公益財団法人 みらいファンド沖縄

みらいファンド沖縄は、市民と社会課題を共有し、課題解決に寄与する地域資源を循環させ、市民の公益活動を支援する財団法人です。



公益財団法人  
**みらいファンド沖縄**

営業時間 月～金曜日 9:00～18:00（土日祝日及び年末年始は休業）  
アクセス ゆいレール 首里駅から徒歩約15分／儀保駅から徒歩約10分  
住所 〒903-0824沖縄県那覇市首里池端町34 2F

加盟団体  
一般社団法人全国コミュニティ財団協会  
一般社団法人全国レガシーギフト協会

# 沖縄・離島の子ども派遣基金




## 子どもの夢を大人が あきらめないで

### 沖縄の子どもから 県外（島外）での貴重な 体験機会を奪わないで

離島県である沖縄では、部活動で全国大会に出るにも、遠征試合に参加するにも、飛行機に乗らなければならない、旅費がかさみます。どれだけ可能性があっても、生まれた土地や家によって、夢をあきらめさせられる子ども、遠征に行けなくて部活を辞める子ども、悩み過程で孤独を抱える子どもがたくさんいます。**子どもは親やPTA、関係者だけでなく、地域全体で育てたい。**県民全体で支える仕組み（基金）をつくらうと私たちは考え、「沖縄・離島の子ども派遣基金事業」をモデル事業として創設しました。

### 旅費支援の相談するには？

現在、公益財団法人みらいファンド沖縄では、休眠預金と沖縄・離島の子ども派遣基金を活用した助成や税制優遇を受ける実証事業を行っています。対象となるエリアやジャンル、そして相談先の窓口となる**実行団体**は以下の通りです。

エリア枠	種目枠	離島枠
豊見城市	サッカー競技全般	八重山地域
窓口 特定非営利活動法人 豊見城市体育協会	窓口 一般社団法人 沖縄県サッカー協会	窓口 株式会社ハブクリエイト
電話受付 <b>098-850-3279</b> 平日9時～17時まで	電話受付 <b>098-996-4722</b> 平日10時～18時まで	電話受付 <b>0980-88-7400</b> 平日10時～17時まで
		

### 申込みから助成までの流れ

派遣が決まった！

- 1 **実行団体**に大会基金設置の相談。
- 2 **実行団体**とみらいファンド沖縄で協議し、基金設置。目論見書を作成し、寄付募集を開始
- 3 みんなで協力して寄付集め、誰でも自由に寄付できます。
- 4 集まった寄付金と休眠預金による助成を活用し旅行業者に支払い。

家計負担の軽減し、子どもの体験を更に充実！

寄付領収書を確定申告時に活用すれば、所得税や住民税の還付も受けられます。


### Q & A

**Q 基金に寄付するとどんなメリットがありますか？**

当基金は、子供の体験保証は等しく担保されるべき公益の事業として位置づけています。よって父兄も含めて当基金への寄付はすべて**税制優遇**の対象となります。基金はすべて大会ごとに管理されますので、別の基金や大会等に流用することはありません。是非ご活用ください。

**Q 支援対象の地域・競技に該当しないのですが…**

当事業は対象を絞り試験的に事業の有用性と持続性を検証する目的で行っています。ただ、様々な方々の意見やご要望を聞きながら、当基金への参画の可能性を常に探っています。是非基金を活用して派遣費負担を下げたいという方の相談をお待ちしています。



相談窓口 | 公益財団法人 みらいファンド沖縄 098-884-1123（平良まで）

### 地域のサポートが 子どもの可能性を広げます

インタビュー  
FC琉球 上里一将 選手（宮古島初の「リーガー」）

**移動のコストは重荷**

僕は宮古島出身で、小学校1年生からサッカーをやっていて、当時から県の選抜チームにも選ばれていました。派遣費に関しては、苦労しかありませんでした。家族にはとても迷惑をかけたかと思っています。県選抜に選ばれると必ず飛行機移動となるために旅費もかさみ、親からも次の遠征は諦めてほしいと言われ、キャンセルしたこともあります。このような練習に絡む移動には、実は支援は少なく、全国大会以外であまり支援を受けた経験はありません。「沖縄・離島の子供派遣基金」のようなサポートがあると家計も助かったのではないかと思います。

**サッカーを諦める仲間**

エースのチームメイトが遠征に行けずに戦わないといけないケースは頻繁にありました。監督コーチの選考時にはいつも派遣旅費の捻出ができるかというのが悩みのようでした。資金の負担のためにサッカーを諦めてドロップアウトする仲間もたくさんいました。このような支援があると子どもたちの可能性は広がるし、「リーガー」はもっと増えると思います。

2020年10月開催の「部活動派遣費問題を考える地域円卓会議」での発言より